



デジタル同居サービスの展望 -孤独のない包摂性のある社会へ-

パナソニック ホールディングス株式会社
事業開発室
スマートエイジングプロジェクト



パナソニック ホールディングスの注力領域

サステナビリティ & ウェルビーイング領域

新たな事業機会創出 × 競争力強化

事業会社連携

コア技術磨き上げ

2030年に向けた社会・環境変化

低炭素/脱炭素 RE100 循環型経済

健康維持 生産性向上自立化/最適化

環境の課題 社会課題解決の本業化

ひと・社会の課題 人間性中心への回帰

物と心が共に豊かな理想の社会の実現に向け、コア技術を強化し、事業創出・事業貢献で社会課題を解決

サステナブルな
地球環境の実現

カーボンニュートラル サーキュラーエコノミー

くらしとしごとにおける
ウェルビーイングの実現

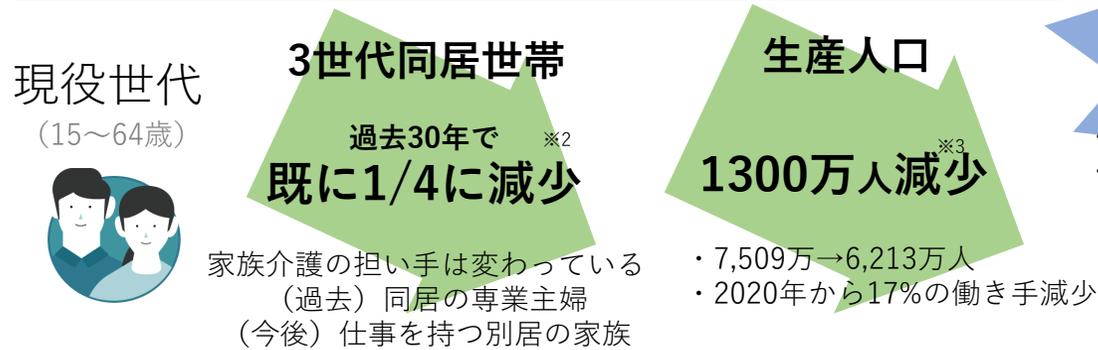
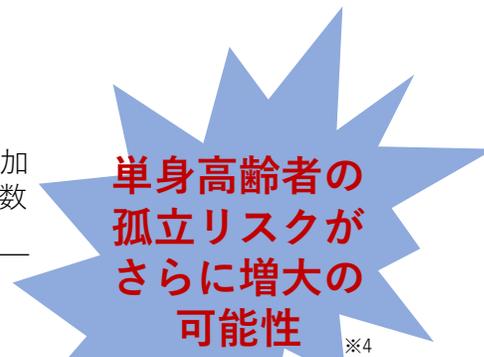
ひととひととの関係性 ひとと社会との関係性

1. 何が課題なのか

2020年から2040年の予測

最悪シナリオ

孤立する独居高齢者は生活・健康維持ができず支える遠隔家族は働けない社会



2. 何をを目指すのか

仮説「デジタル同居サービス」



両立させる新サービスの創出で
包摂的社会の実現に寄与

実現にむけたサービス機能の方向性

- ・介護リテラシー提供
- ・生活実態を把握
- ・老親の理解を深める
- ・AI/専門家による助言
- ・コミュニケーションの質的变化
- ・本人が使えるデバイス利用
⇒スマホorテレビ等家電
- ・社会参加機会拡大
⇒自治体事業参加促進

親世代と子世代の関係性について

親世代
(60-70代以上、別居の子あり)



「親の自負」「メンツ」
「まだ健康」

老いを感じるが、子に負担をかけたくない、ヒヤリハットがあっても隠す、でも会いたい

Q.自身の老いを感じますか？



■感じる ■やや感じる ■あまり感じない ■感じない

Q.子どもの負担になりたくないと思いますか？



■あてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない

Q.最近のヒヤリハット体験

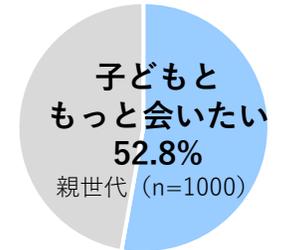


ヒヤリハット：物忘れ、健康診断の結果が悪かったこと、転倒などのアクシデント、鍵の閉め忘れ、火の消し忘れ、買い物時のお金の管理

Q.子どもの前では元気なふりをしたことがある



Q.別居する子どもとっと会いたいですか？



ここに大きなギャップが存在する！
親世代の孤独→フレイル→急に要介護→子世代の負担増
→このペインを解消するのが「デジタル同居」

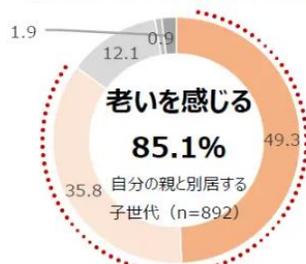
子世代
(20-69才、60代以上の別居の親あり)



「面倒」「分からない」
「まだ先」

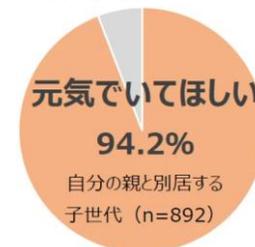
元気でいてほしいが、親の老いに向き合えず、健康状態を知らないまま、10年後の介護を心配

Q.自分の親の老いを感じますか？

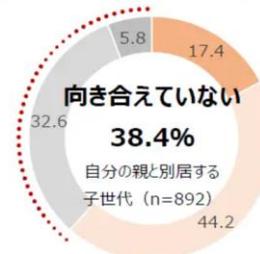


■感じる ■やや感じる ■あまり感じない ■感じない ■わからない

Q.親にはいつまでも元気でいてほしい



Q.自分の親の老いに向き合っていますか？



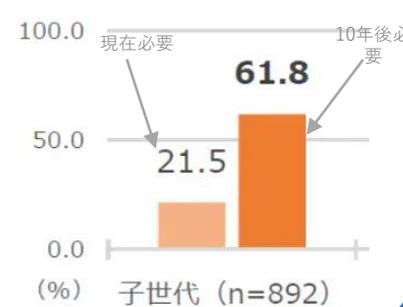
■向き合っている ■やや向き合っている ■あまり向き合っていない ■向き合っていない

Q.自分の親の今の健康状態を正しく理解できていないと思う



■あてはまる ■あまりあてはまらない ■ややあてはまる ■あてはまらない

Q.親の生活に人の手助けが必要だと思う



(%) 子世代 (n=892)

デジタル同居ゴールの全体像

デジタル同居（健康寿命延伸・リテラシー向上・Well-beingの実現）が組み込まれた『地域包括ケアシステム』の実現

専門家知識による介護予防促進・介護レベル改善（健康寿命延伸）



専門家知識に基づく
モニタリング・プラン提供

生活実態・予兆把握

フレイル・認知機能

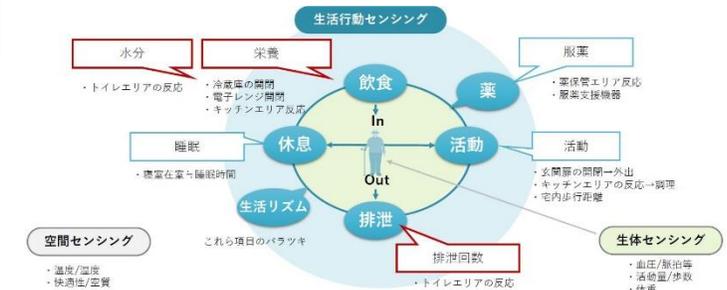
維持改善への介入

「デジタル同居サポーター(仮)」



デジタル同居環境整備を拡大させるサポーターを育成

専門職の教育ツールの汎用化



最新のエビデンス介護予防，要介護状態改善への知識

親子双方の介護予防リテラシー向上
(不安解消・質的コミュニケーション)

地域社会資源

- ・ボランティア・NPO
- ・フィットネス
- ・買い物支援
- ・シニア向け商品 など

介護・医療リソース

- ・在宅介護サービス
- ・施設介護サービス
- ・医療機関 など

高齢者



住まい

遠隔家族



地域資源との接続
社会活動機会の提供

サービス提供体制の整備

自治体(地域包括ケアシステムへの実装)

孤立予防・生きがい感の増進（Well-beingの実現）

[子世代側]

ユーザ調査で、親とのコミュニケーション実態や親の暮らしに対するニーズを把握 → サービス要件仮説へ反映

■インタビュー調査

- 親世代側とは、**対面や電話／ラインでのコミュニケーションは頻繁にとっているものの、老いの状況については客観的に十分把握できていないと考えている人が多く、既存のサービスも見つけられておらず、客観的な状況の「モニタリング」に対するニーズは強い**
 - 駆けつけまでのサービスは現状は必要としていない
 - 頻繁にコミュニケーションを取っていても、老いとその対策についての会話は避ける傾向
 - 現状（具体的に困っていない状況）では行政で取り扱ってもらえず、サービスもあまり存在していないと考えられている
- 「モニタリング」については、親側が「見張られている」ことと、他人が入ることを嫌がっているため、**センサーに対する受容性が高い**
 - カメラなどに「見張られている」ことに対しての抵抗感が高い
 - ウエアラブルの受容性は人による
- 見たい「モニタリング」項目は、**認知症の進行度合いはほぼ全員に共通**。それ以外は、疾患や行動によるが、**身体情報より、心理、生活情報へのニーズが強い**
 - 現状の「認知症」の進行具合については今後の見込みも含めてほぼ全員がニーズを持っている
 - その他の身体状態、行動状況（歩行、冷蔵庫の開閉）などは、疾患や生活状況（料理をする人かどうかなど）によって異なるため幅広く対応できることが理想

1. 離れて暮らす老親の生活実態・健康状態，さらに予兆がわかる

離れて暮らす老親の生活実態や健康状態をリモートでしっかり把握。
これらのデータでコミュニケーション活性化や外出促し

- スマートトイレ
健康状態・服薬効果の把握で健康維持



- 硬い便・普通便 
- 軟らかい便 
- 下痢便 

- デジタルミラー
バイタルやストレス状態の把握

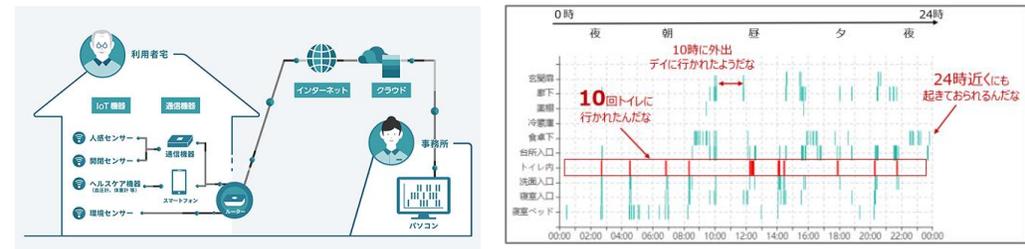
- 睡眠状態・AIカメラでの活動実態の把握



01 バイタルレベルの検知と異常値のアラート
02 映像による居室状況の把握
03 生活リズムレポートで個別ケア
04 アップデートと拡張性

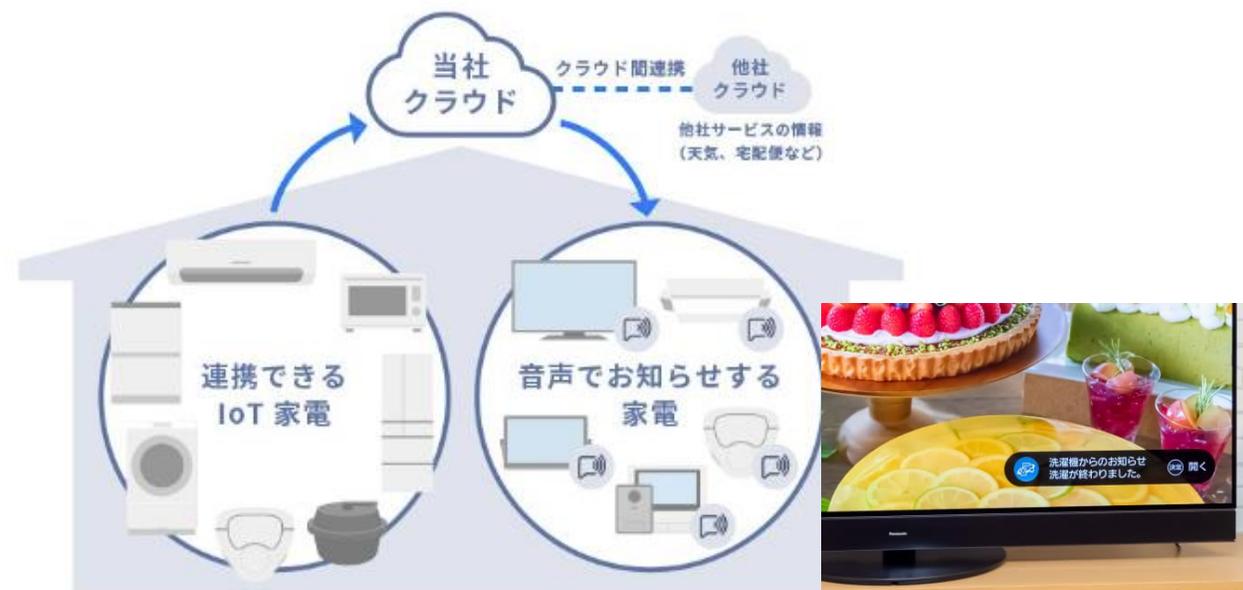
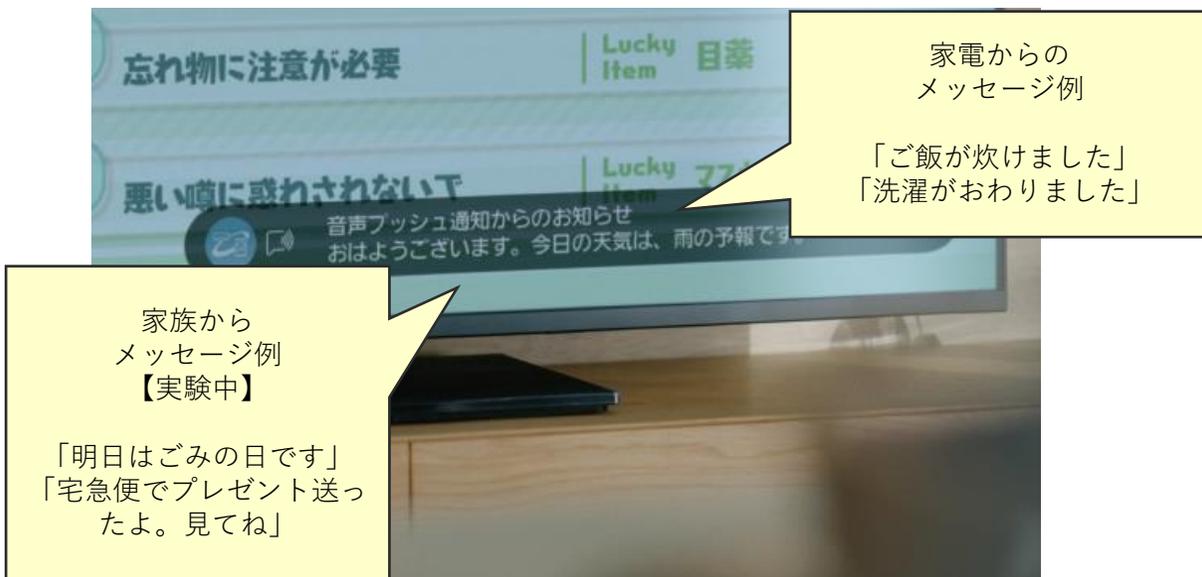


- 簡易なセンサで、1日の生活リズムを把握、
→老親の暮らし方を理解



2. ITに不慣れな方でも使いこなせる

スマホやPCなどの使いこなし不要。使い慣れているテレビや家電でコミュニケーション



音声プッシュ通知機能

スマホが使えない高齢者でも大丈夫！
普段見ているテレビからデジタル同居家族と
コミュニケーションできる。

TVだけではなく、シーリングライトやドアホンからも
音声プッシュ通知

IoT家電の使用実態から生活実態を把握

エアコンや洗濯機、冷蔵庫、調理家電の使用実態から
生活実態をしっかり把握。ちょっとした異変にも気づける。

3. バーチャルペットや専門家によりセルフケアを促進する

バーチャルペットサービス



本人のつぶやきを拾い
会話のヒントを集める

健康のこと、日々の生活のこと

親子関係でなかなか本音・円滑なコミュニケーションが
難しい関係を、バーチャルペット「おせっかいネコ」※を
介して、親子のコミュニケーションを図るサービス。

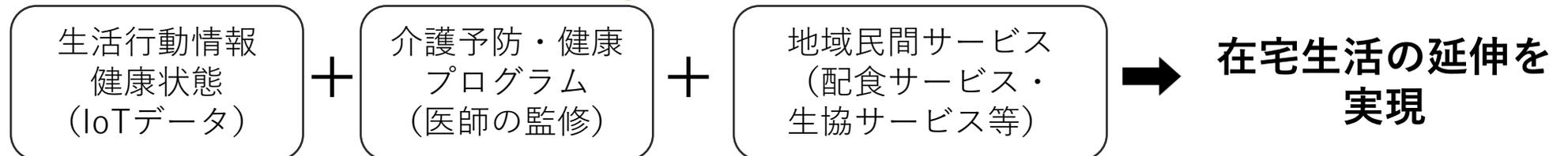
専門家による状態把握・介入サービス



リモートコンシェルジュが、
介護にならないようにサポート

- 専門のコンシェルジュと
適切な日々の目標設定、
コミュニケーションをし、
目標達成できるようサポート

加えて



B2Cサービスとともに、介護保険や総合事業のモデル作りをSIPの中で取り組む

親子間のコミュニケーション



生活実態や健康状態が把握できる

スマホ使えなくてもTVでできる

バーチャルペットやコンシェルジュを介して円滑にコミュニケーションできる



外出機会・社会的なつながり



自分の状態がわかり自信がもてる

子供・ペット・コンシェルジュからの後押し

TVなどを介して、地域活動PUSH

(孤独・諦めなどからの)

ADL/QOLの低下



デジタル同居によって
老親の

・孤独解消・介護予防

遠隔家族の

・不安の解消

・介護離職などの抑制

遠隔家族などポピュレーションへの教育
- デジタル同居サポーター(仮) -

IoTデータを活用する専門職の教育
- コンシェルジュ, ケアマネ -

**「デジタル同居サービス」
のKGI:
在宅生活の延伸**